

## 第5回奈良ESD連続セミナー 概要報告

- ◇開催日時 平成28年8月29日(月)19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
- ◇参加者 中村(済美南)、池見・大西(飛鳥小)、中澤(平群北)、三木・山方(都跡)、  
新宮(平城小)、池見(大宮小)、森崎(朱雀)、島(郡山西)、河野(富雄第三)  
北村・後藤田・糸・黒木・中澤(奈良教育大)

### ◇内容

テキスト『持続可能性の教育の意義と展望』  
(佐藤学)

#### 1. 「ESD」という言葉がもつ問題とは

- ・耳なれない言葉
- ・トップダウンのイメージ
- ・ESDという言葉の意味が理解しにくい
- ・Sの翻訳が抽象的
- ・ESDの用語の意味不明。抽象的である。
- ・翻訳しても意味が判然としない。伝わらない。



#### 【考察】

- トップダウンというが、奈良では行政が働きかけているイメージがない。むしろ現場からでは。英語・道徳とは違う。指導要領に書かれているが明確でない。
- 筆者の述べる通り。実際現場では、ESDの理解も少なく、前例もない新しいことに取り組むのは難しい。
- 教師は何であれ、勉強し、実践していこうとするが、内心、新しいものに対してアレルギー反応がある。しかし、勉強している教師は、学習課程のイメージ化はしやすい。
- わからないことに取り組めない教師が多いのかもしれない。教科教育において、我々は本当に知っていると言えるのか。知っているつもりになっているだけではないのか。知らないけれども先輩の姿をまねて取り組んでいたが、ESDについては、先輩がいないからわかりにくさが際立つのかもしれない。

#### 2. 筆者が「持続可能性の教育」という言葉は使えても、「ESD」は使えないと実感しているのはどのような理由があるのか。

- ・ESDがCO2削減の「クリーンなエネルギー」としての原子力発電の推進とセットになっていたから。(途上国に売り込む意図も)後ろめたさ。

- ・原発普及とESDはセットだった。

#### 【考察】

- 本当にそうなのか？佐藤さんの思い込みが強いのでは。
- 持続可能性の教育(ためのをはずすと)は、違ったものになってしまうのではないか。



○ESDを含め、教育は変化するもの。原子力発電とセットで悪だというのは一面的だし。結果論でもある。

○はじめは、観光がESDの切り口だったのでは。

○原発を含む環境教育はユネスコの思惑と少し違うのでは。

○高校公民科の政治経済の指導要領解説には、原発がCO<sub>2</sub>削減の一つとして書かれている。

### 3. 今世紀における人類未踏の課題とは何か？それはなぜ難題なのか？

・資本とテクノロジーの暴走を制御することができない。制御できた事例はわずかしかないから。

・人間の欲望は無限、人間ってそんなもん。

○倫理が必要とされている。

### 4. 持続可能性の教育

①世界観の教育

②個々の持続可能性を実現する個々の内容の教育

③生き方と倫理の教育

④行動の教育

#### (1) 持続可能性と開発の関係

・両方は矛盾しているものだが、両立していかなければならないものである。両立するためには、ヴァナキュラーな知が大切。

・持続可能性と開発は矛盾するのに両立するのか。

・科学技術と知恵（人間味・古くから大切にしていたもの）の関係も二律背反ではない。

・従来、開発と持続可能性は対立であった。現在の日本でもまだそのように思われる。

・保護と開発がウインウインの関係になるよう、コーディネートしていく必要がある。

#### (2) 持続可能性の教育における学びの性格

①学びを活動的で協働的で反省的な実践と定義

②プログラム型の学びではなく、プロジェクト型の学びを推進

③学びを自然過程ではなく、文化的、社会的、政治的、倫理的実践として性格付け

○実践が大事、実践が伴わなければならない

×机上で終始する学び。これを「知識の意味」

○現実場面で使える知識や技能。これを「知識の意味の機能」。

○特定の文脈における特定の内容による特定の認知：現実感のある問題が必要

○一般的な知識はおいといていいのか。

○学びには意図的な背景がある。

○①～③は国際理解教育と環境教育、学びの共同体の共通点であり、ESDの性格ではないのでは。

#### (3) 持続可能性の教育における生き方の学び

・認識、倫理、行動の統合によるシステム・ライフスタイルの変革

・次世代の子どもたちに必要な生き方の教育（思想と哲学の教育、感情と行動と生き方）

価値観の変容による資本とテクノロジーの暴走を阻止する可能性

・倫理と行動の教育。生き方を考える、問い直す教育

次回は9月21日（水）19時から

教育課程企画特別部会 論点整理の2・3・4を検討します。

2：島先生、3：中澤哲先生、4：新宮先生 よろしくお願ひします。

